

難波宮跡出土万葉仮名文木簡 1点 附 土器資料 24点

難波宮跡出土万葉仮名文木簡

なにわのみやあとしゅつど まんようかなぶんもっかん

分野／部門

有形文化財／考古資料

所有者

大阪市

出土地

大阪府中央区久宝寺町

紹介

法量：長さ 18.50cm 以上、幅 2.65cm



この木簡は、史跡難波宮跡の南西約 100m、前期難波宮(長柄豊碇宮)の建設に伴うと考えられる整地層の直下の地層から出土した。

そのため、木簡の出土した地層の時期は、前期難波宮が完成する白雉 3 年(652)前後より古いと考えられる。

木簡の片面には「皮留久佐乃皮斯米之刀斯口」と11字が完全に残り、12字目をわずかに残して折れている。

「はるくさのはじめのとし口」と読まれたと考えられ、万葉仮名によって日本語の文章が表記されている。

これまで国語学では万葉仮名文の成立は7世紀末頃とされていたが、この木簡の出土により、その成立が7世紀中頃まで遡る可能性が出てきた。当木簡は、日本語表記や和歌の歴史、そして書道の分野に関わっても注目される考古資料であるといえる。

附として木簡の時期を示す土器資料24点を含める。